宮古盛岡横断道路　区界～簗川　開通式　【 挨 拶 】　-R2.12.5-

達増　拓也　岩手県知事

宮古盛岡横断道路の区界から簗川間が開通するにあたりまして、御挨拶申し上げます。
本日は、多くの御来賓、そして関係の皆様の御臨席を賜りまして厚く御礼申し上げます。
地域高規格道路 宮古盛岡横断道路は、三陸沿岸の拠点都市である宮古市と、県都 盛岡市を結び盛岡秋田道路と一体となって北東北の産業、経済、文化等の発展を支える主要幹線道路です。
本日開通する区界から簗川間は、東日本大震災津波以降に事業化されたものであり、国の復興のリーディングプロジェクトに位置付けられ、かつてないスピードで整備を進めていただきました。
これも、先祖伝来の貴重な土地を御提供くださいました地権者の皆様、地域住民の方々、国土交通省や復興庁をはじめ、関係の皆様の多くの御尽力、御支援のたまものであり、深く感謝申し上げます。
この度の開通により、宮古盛岡横断道路の最大の難所である区界峠が解消し、沿岸と内陸の所要時間は大幅に短縮され、円滑な物流、救急搬送をはじめとする医療活動の支援、冬期の走行安全性の向上など多くの効果を発揮するものと確信しております。
今年度末には、宮古盛岡横断道路が、また、来年中には三陸沿岸道路がそれぞれ全線開通する予定であり、県土の縦軸・横軸を構成する高規格幹線道路ネットワークの整備が着実に進み、道路のストック効果が広く全県に波及し、全国に広がることが期待されます。
岩手県では、国や市町村、関係者の皆様と一体となって、一日も早い復興道路・復興支援道路の全線開通に取り組みますとともに、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を支える社会資本整備を推進してまいりますので、引き続き御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、本地域のますますの御発展と御臨席の皆様の御健勝、御多幸を祈念申し上げ、挨拶といたします。

谷藤　裕明　盛岡市長

本日ここに、「宮古盛岡横断道路　区界～簗川」が開通できますことを心よりお慶び申し上げます。
未曾有の被害をもたらした東日本大震災から約９年９ヶ月、「宮古盛岡横断道路」について、かつてないスピードで事業が進められておりますことは、国、県をはじめとした関係者の御尽力の賜と心より感謝申し上げます。
また、用地を御提供いただいた皆様方におかれましては、御協力を賜り深く感謝申し上げますとともに、地域住民の方々におかれましても、工事期間中、多大なる御協力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。
本市は、これまで東日本大震災からの復興に関し、沿岸被災地に寄り添った支援を行うとともに、「宮古盛岡横断道路」の早期全線開通について、関係機関に要望を重ねてまいりました。
一般国道１０６号は、東日本大震災において被災地へのアクセスルートとして活用され、内陸部から救援活動、物資の輸送に大きな役割を果たしたほか、宮古広域圏から盛岡広域圏への高度救命救急センターを結ぶ「命の道路」であります。
中でも急カーブ、急勾配が最も多く、冬季間の路面凍結など、宮古盛岡間の最大の難所である区界～簗川の開通は、「宮古盛岡横断道路」の全線開通に向け大きな弾みとなるものと存じます。
全線開通により、宮古盛岡間における移動時間の短縮による物流の効率化促進は言うに及ばず、これに伴う地域産業の活性化や周遊観光圏域の拡大による経済効果、更には沿岸部から内陸部の高次医療施設への救急搬送や医療活動の安定性・迅速性の確保など、いわゆる「ストック効果」の発揮が大いに見込まれるものと期待いたしております。
結びに、「宮古盛岡横断道路　区界～簗川」の開通の関係者の皆様方の今後益々の御発展と御活躍を祈念申し上げまして、挨拶といたします。

梅野　修一　国土交通省　東北地方整備局長

おはようございます。
宮古盛岡横断道路 区界～簗川の開通にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
本日は、国会議員の先生方、達増岩手県知事、谷藤盛岡市長、山本宮古市長はじめ、関係者の皆様方におかれましてはご多用のところご臨席を賜りまして、誠に厚く御礼申し上げます。
本日、このように開通の日を迎えることができましたのも、ひとえに用地をご提供いただいた地元の皆様をはじめ、事業の推進にご支援、ご協力を頂いた多くの関係者の皆様のお陰と、心より御礼を申し上げます。
本日の開通区間には、岩手県内最長の道路トンネルとなる、延長約５キロの新区界トンネルがございます。新区界トンネルは、冬季のマイナス２０℃にも及ぶ寒さや降雪といった厳しい自然条件の中、５年７ヶ月の期間を経て、完成しております。
本日の開通により、これから迎える本格的な冬をはじめ、宮古から盛岡間の最大の難所であった区界峠は、 安心・安全に走行することが可能となり、沿線の救急医療や内陸部と沿岸部を結ぶ観光流動、地域産業の振興に大きく貢献するものと期待しております。
復興支援道路として取り組んでまいりました、宮古盛岡横断道路約６６キロメートルも、残すところ２１キロメートルとなりました。残りの区間につきましても、年度内の開通を目指し、事業を推進してまいりますので、引き続き、関係者の皆様のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。
結びに、当地域の一日も早い復興、そして更なる発展と、本日ご臨席の皆様方の一層のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

宮古盛岡横断道路　区界～簗川　開通式　【 挨 拶 】　-R2.12.5-

鈴木　俊一　衆議院議員

皆さんおはよう御座います。御紹介頂きました、鈴木俊一で御座います。
本日は、地域高規格道路・国道106号線の最大の難所であります、この区界峠にトンネルが出来たまさに歴史的な日である、そのように思って御座います。
この歴史的な良き日を迎えるにあたりまして、父祖伝来の土地を提供頂いた地権者の皆様方、また国土交通省、復興庁はじめ国の皆様方、そして県・市町村の皆様方、また工事関係者の皆様方、関係する全ての皆様方に心から感謝を申し上げるところで御座います。
あの未曾有の東日本大震災が発災をして、この106号線は復興支援道路と位置付けられて、国の大変な力の中で整備が進んで参りました。復興事業が始まって、当初の５年間は三陸沿岸道路と同様に100%、10分の10、国の負担で行われてきた訳でありますが、５年を経過したときに一部、地元負担をお願いする、こういうお話がございました。
岩手を初め、被災３県、財政的には大変厳しい状況で御座います。私も数度、復興庁に足を運び、幸いに当時の竹下復興大臣の御理解も頂きまして、国が98%以上、県は実質1.7%程度の負担で工事が行われる。そのように決定がなされたわけでありまして、あらためて復興庁の皆様方にも心から感謝を申し上げるところで御座います。
岩手県の道路整備、今までは背骨に当たる部分、まあ順調にと言っていいと思いますが、整備が進んで参りました。しかし、岩手には北上山地をはじめとする大きな高地が屏風のように立ちはだかっている、まさに、肋骨に当たる部分、この整備というものが大きな課題であった訳で御座います。
今日、106号線のこの最大の難所がトンネル化をされるということで、まさに、ひとつの県内における、この肋骨の象徴であった、シンボルであった、この106号線、この区界峠ここが整備されたということを重ねて心からお喜び申し上げるところで御座います。
整備をされましたこの106号線を活用して、先程来お話が御座いますけれども、経済・文化・教育あるいはこの命を守る道路、そういう意味において大いに県の発展に繋がっていく、そのことを心から念願をするものであります。
あらためて、この道路の整備に御尽力を頂いた全ての皆様方に重ねて心からお礼を申し上げ、また、お祝いを申し上げて私の挨拶とさせて頂きます。
おめでとうございます。

階　猛　衆議院議員

皆様おはよう御座います。只今ご紹介を頂きました、衆議院議員の階猛です。
本日は宮古盛岡横断道路区界～簗川間の御開通、誠におめでとう御座います。また、地権者の皆様をはじめ、御尽力頂いた関係者の皆様に心より敬意と感謝を申し上げたいと思います。
この宮古盛岡横断道路ですが、先程来お話がありますとおり、東日本大震災を契機として整備が進んでまいった訳であります。当時私は政権与党の一員でありました。盛岡の議員として中央から来る様々な政治家を被災地の宮古まで御案内する機会が多く御座いました。その際に、特に東京から西の政治家の皆さんからよく言われたのが、東京から盛岡まではあっという間だけれども、盛岡から宮古までが遠いねということを皆さんから言われました。そしてそういう中で、やはり沿岸と中心部・内陸を結ぶ道路が必要だということで、この宮古盛岡横断道路と釜石と花巻を結ぶ横断道路の整備が決まっていたという経緯があるわけであります。
ただ、この道路、今年度中には宮古盛岡横断道路が開通する見込みだそうでありますけれども、道路は造ることが目的ではありません。地域を存続させ、発展させる手段であるということを、私たちは肝に銘じるべきだと思っております。なおかつ、道路というものはこれから使い勝手が良いものにしていくためにも、皆様と一体となった尽力が必要だと思います。
この宮古と盛岡と言えば、沿岸の中心都市と内陸の中心都市であります。双方の強みを活かして、力を合わせることによって必ずやこの宮古盛岡横断道路が、地域の継続的な発展の必要十分条件になるものと確信しております。
どうか、これからも、皆様のご理解ご協力、ご支援をお願いしたいと思います。最後になりますが、今日ご参会の皆様の今後のますますのご健勝、ご活躍を祈念申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。
本日は誠におめでとう御座います。

高橋　ひなこ　衆議院議員

ありがとうございます。ご紹介頂きました衆議院議員の高橋ひなこです。
宮古盛岡の横断道路、どれだけの首長さん達が、先人達が、知事が、そして議員の皆様方がこの道路を是非改良してくれと要望をしてきたことでしょうか。
先ほど、谷藤市長と山本市長にお話をお伺いましたら、100年以上前から本当に一生懸命懇願していたはずだと、本当に貴重な道路なんだということを仰ってました。その改良の話がまず国体のときに1度行われていますけれども、大きく進展したのは、東日本大震災です。
皆さんはあの10年前どこにいらして、どんな思いで、今日まで過ごされてきたことでしょうか。その間それぞれの首長が、県が、そして議員の皆さんや関係者の方が、命をつなぐ道路をなんとかしようと、その思いでこの道路、特に区界と簗川は急勾配・急カーブ一番の難所だと言われております。
国交省の方が先日いらしたときに、これだけの難所を、そしてこれだけの工事を10年間でやるというのは、本当に並々ならぬ事だと、これまで中々なかったことだということをおっしゃっていました。それだけの県内外の皆様方からのお力添えを、そして国から、県から、また地元の皆さん、土地を提供して下さった皆さん、議員の方々のその思いがつまった今日の開通でございます。
どうぞこの道路を使われるとき、そしてこのマスコミの皆様方にこの悲願の道路をぜひ全国へ報道して頂き、命を繋ぐ道路、ちょうど宮古から岩手医大に来るときに、90分全線開通で、ですから90分で来れるようになります。私が小学校のときは3時間以上かかってました。命を繋ぐ道路そして震災を経験した本当に大変な人たちが、皆さんのおかげで命を繋ぐ道路開通しましたということをしっかりとアピールをして、それに関わった皆様方に心から敬意を表し、一言お祝いの言葉とさせて頂きます。
皆様本当に本日までご苦労様でした。そしてこれからも全線開通に向けて頑張って参りましょう。
ありがとうございました。

宮古盛岡横断道路　区界～築川　開通式　【 挨 拶 】　-R2.12.5-

木戸口　英司　参議院議員

みなさんおはようございます。

あの東日本大震災から9年と8ヶ月、もう少しで10年が経過しようとしております。尊い多くの命が犠牲となり、そして家が仕事が奪われたあの大きな災害から、みんなで力を合わせて、そして犠牲となられたふるさとをもって、亡くなられた皆様の多くの思いを受けてこの事業がここまで推進をされて参りました。復興道路、そして復興支援道路がこれまで多く開通をし、その中でも今日を迎えたこの区界～築川間は一番の難所と言われています。

私も当時、県庁にいたころ、非常に難しい工事だということを関係皆様から聞かされて参りました。特にもここ一年弱、新型コロナウイルスが感染をし、工事現場も非常に緊張が強いられたと思います。また今日の開通式を迎えるに当たっても、行政の皆様が非常に気を遣われて今日を迎えられた、重ねて皆様のご労苦に経緯と感謝を評し、そして皆様と共に大いに喜び合いたいとそのように思います。

特にここ２年くらい、この数多くの開通式に、私も皆様と共に本当に多くの喜びを爆発させながら、参加をさせて頂きました。その都度思うことは、この広い岩手、この県土に、人が住み始めて、この海を繋ぎ、そして海と内陸を繋いでくること、道無き道を通って、海の産物を内陸に運び、そして山の物、里の物を、海に運ぶ。そしてそこに道を開き、そして人々が往来し、そういった先人たちの思いをはせる、そんな思いをいつもするところでございます。

この街道は当時、宮古街道、閉伊街道と、そして江戸時代通称「五十集（いさば）のみち」と言われたそうであります。五十を集める、五十集屋と言えば魚屋ということでありますけれども、それだけ海の物、三陸の物を期待し、そして海の皆さんは内陸のおいしいお米を穀物を持って、そして交流を深め、お互いに豊かになってきたと。またちょうど100年前、原敬内閣の頃に、この山田線が開通が決まって、そして98年前に開通したと、当時の逸話だと「誰が乗るんだ」ということを国会で言われたということで有りますけれども、開通してみれば、毎日超満員だったということの逸話も残っております。それだけこの沿岸、三陸と内陸との交流というのは、もう歴史的に大きな期待が寄せられてきたということを、私たちはそのことをまた感じながら、これから新しい時代を切り開いていかなければならない、そのように強く思っているところであります。

まさにこの区界トンネルが、新しい時代に向けて、「五十集ゲートウェイ」になるように、そして「希望ゲートウェイ」になるように、私たちはそのことを強くここに誓い合いながら、これからの地域の発展を期して参りたいと思います。

誠におめでとうございます。

横澤　高徳　参議院議員

皆様おはよう御座います。紹介頂きました横沢高徳で御座います。

まずもって宮古盛岡横断道路の区界～築川の開通、心よりお喜びを申し上げます。そして本日の開通に向けまして、御尽力頂きました全ての御関係者の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

災害対策や地域の活性化、医療を守る命の道路の整備は非常に重要な役割だと考えております。106号沿線の特に救急搬送の９割は管外搬送と聞いております。そしてまた、地域公共交通のバリアフリー化が進んでいないこの地方部では高齢の方や障害をお持ちの方の移動は車移動に頼らざるを得ない状態に御座います。

このような状況において、冬道の安全そして安心が高まり、利用者の心理的な負担が軽減、そしてまた時間的な負担が軽減することは、非常に喜ばしいことだと感じております。

道路をとおして、これから岩手の魅力を国内外に発信していけるよう今後も生活者の目線を大切に皆様の御要望をしっかりと伺いながら、復興に共に進んで参り、そして地域のインフラ整備、災害に強いまちづくりに取り組んで参りたいと思います。

ご関係市町村の益々の御発展そして、今日ご参集の皆様の御健勝を心よりお祈り申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。

本日は誠におめでとう御座います。

【お礼の言葉】山本　正徳　宮古市長

宮古市長　山本正徳でございます。

宮古盛岡横断道路　区界から築川間の開通にあたりまして、一言御礼のご挨拶をさせていただきます。

本日、私どもの長年の悲願でありました、宮古盛岡横断道路の中で、最大の交通の難所であります、区界から築川間の開通を無事に迎えることが出来ました。万感胸にしみるものがございます。大変うれしく思っております。

これまで、力強く事業を推進していただきました国土交通省、復興庁をはじめ、ご臨席の皆様、地元住民の皆様、工事関係者の皆様、関係する全ての皆様に、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

国道１０６号の区界峠は、急カーブ、急勾配、そして冬期の重大事故の発生率が非常に高い難所でありました。今回の開通によりまして、交通の難所が解消され「命の道」としての安全、安心が確保されることになります。

また、沿岸地域から県央を結ぶ高速交通ネットワーク形成への大きな一歩であり、内陸と沿岸の観光交流人口の拡大、物流の効率化による地域産業の振興など大いに期待を寄せておるところであります。

本日の開通を契機に、今後の宮古盛岡横断道路の全線開通にむけて、ますます事業が促進されることを期待を申し上げ、御礼の言葉とさせていただきます。

本日はありがとうございました。